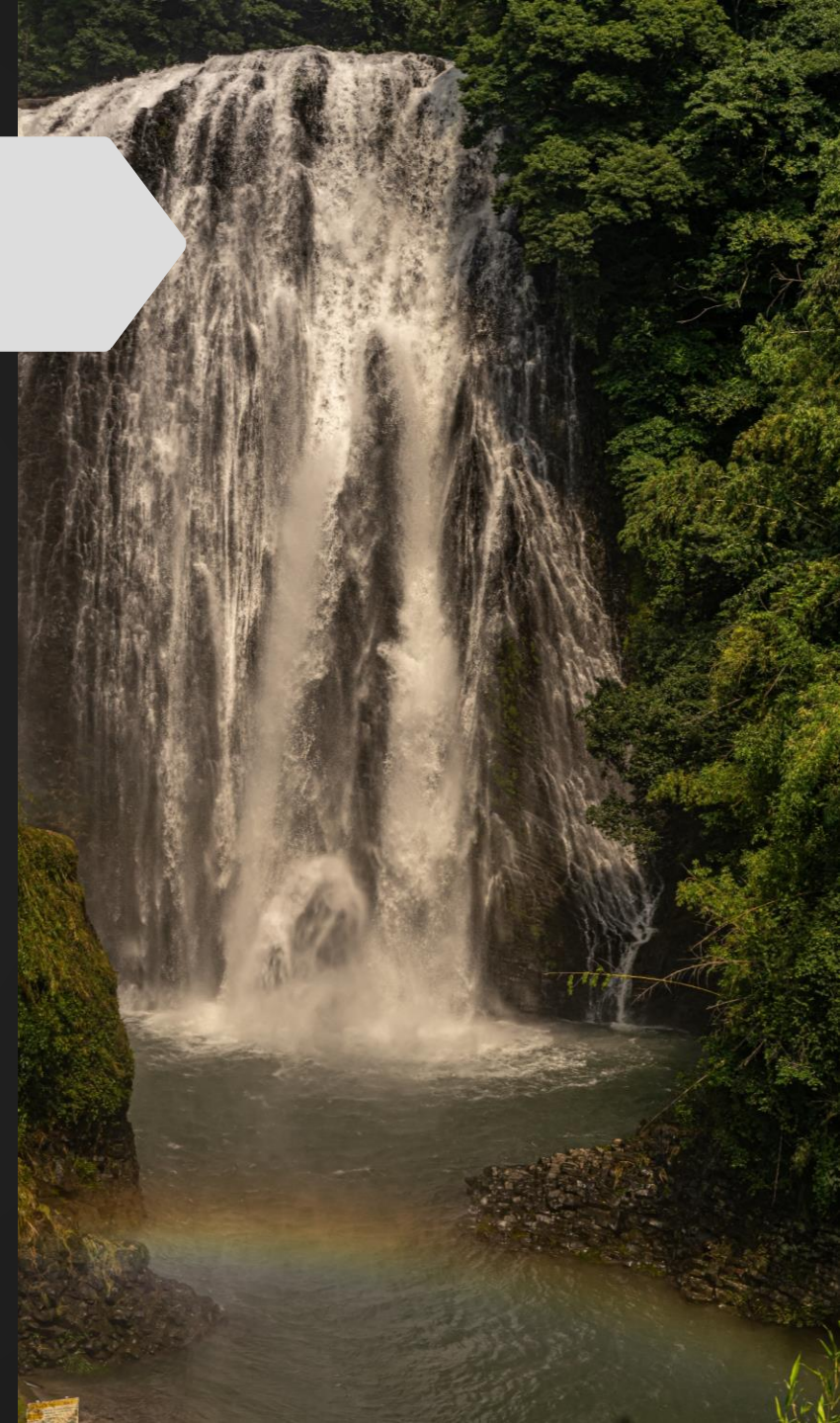
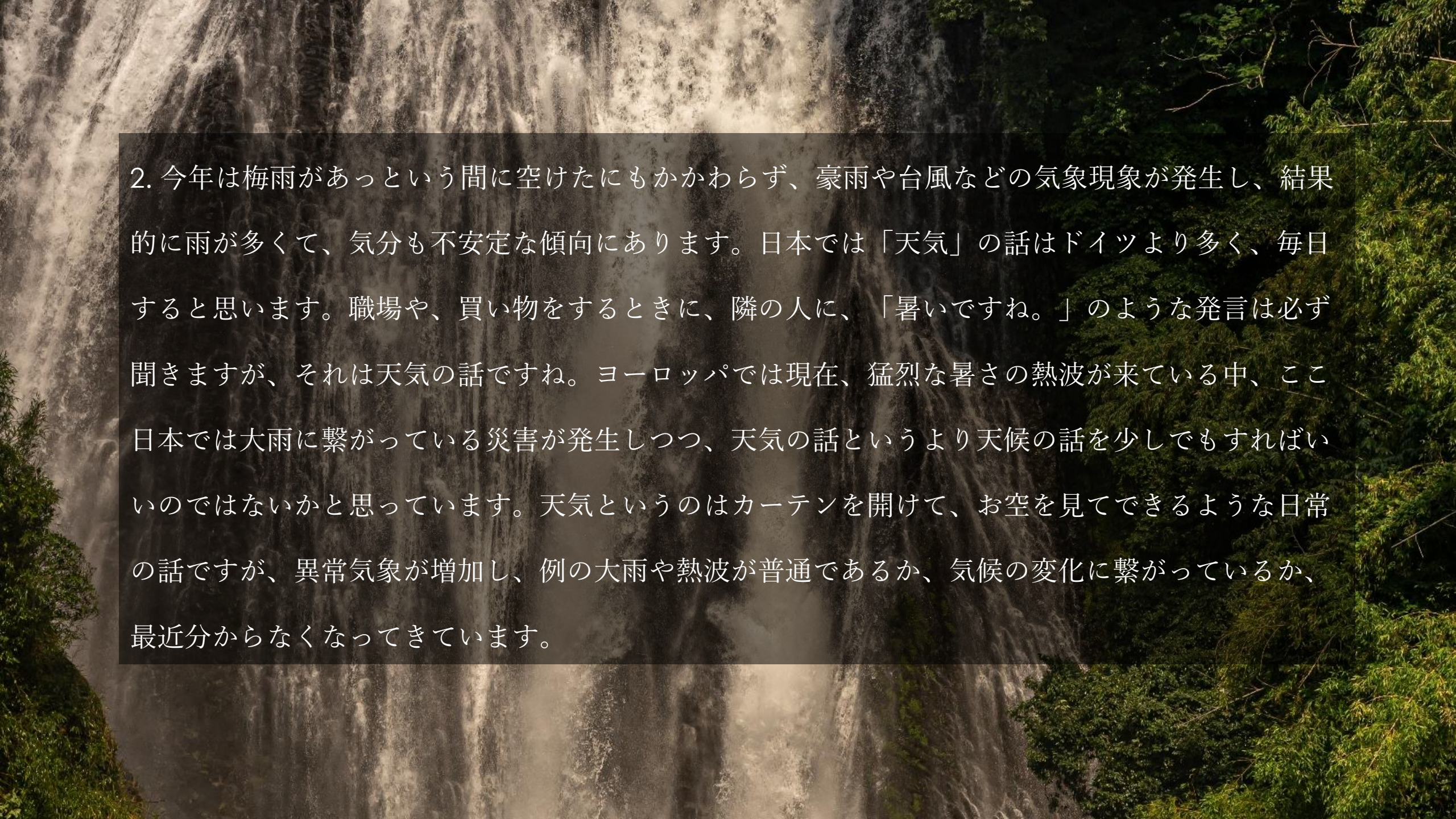


8月「Wetterfühligkeit」 アントニア・シュルト

1. ドイツ語は難しい言語だというイメージがあると思いますが、文法などを
知る必要がない面白いドイツ語をここで少し紹介したいと思います。それ
は「wetterfühlig」（ベッタフュリグ）という素晴らしい表現です。英
語やフランス語などにより、二つの言葉をつなげることで新しい単語が簡
単に作れるという特徴があります。日本語の漢字で構成されている単語に
似ています。「Wetterfühlig」（形容詞）、または「Wetterfühligkeit」（名
詞）というのは「気象によって気分が変わる」という意味です。私はとて
も「wetterfühlig」です。天気のいい日は気分が良い時が多く、何が起
こっても、「大丈夫、何とかなる！」という態度をとり、雨が降ったり、
暗くて寒い天気だと、気合いがなく、「人生に意味はあるのか」という気
分になってしまいます。





2. 今年梅雨があつという間に空けたにもかかわらず、豪雨や台風などの気象現象が発生し、結果的に雨が多くて、気分も不安定な傾向にあります。日本では「天気」の話はドイツより多く、毎日すると思います。職場や、買い物をするときに、隣の人に、「暑いですね。」のような発言は必ず聞きますが、それは天気の話ですね。ヨーロッパでは現在、猛烈な暑さの熱波が来ている中、ここ日本では大雨に繋がっている災害が発生しつつ、天気の話というより天候の話を少しでもすればいいのではないかと考えています。天気というのはカーテンを開けて、お空を見てできるような日常の話ですが、異常気象が増加し、例の大雨や熱波が普通であるか、気候の変化に繋がっているか、最近分からなくなってきました。

3. IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書では「地球温暖化が人間活動によるものであることは「疑う余地がない」と初めて断定し、極端な大雨や熱波、干ばつなどの異常気象の増加にも人間の影響が現れている」とあります。友達にそういう話をする、意見が分かります。「私には関係ない。」とか、「思想問題だけでしょう。」というようなスタンスが少なくないですが、専門家の研究を踏まえて、地球温暖化や気候の変化が私たち人間活動の影響によるものというのは認めざるを得ない事実です。地球温暖化に伴う様々なリスク、海面上昇、大雨や洪水、強い台風の増加、健康被害、食糧や水への影響、生態系への影響がすでに始まっています。気候変動によって、最も深刻な被害を受けるのは、被害の原因となるCO₂をほとんど出していない発展途上国や、「将来世代」と呼ばれる人たちです。難民の多くは、気候変動の影響による被害を最も受けやすく、気候変動の影響への適応の準備が最も遅れた国で発生しています。原因に責任がない人たちが最初に深刻な被害を受けるというのが非常に不公平なことだと思います。これを社会構造的な人権問題として捉え、「私には関係ない」と言えなくなる状況になっています。